

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 5月号 (NO 61)

2015年5月10日(日) 発行(毎月10日)

【農暦】新緑を眺め楽しんでいる暇はないと！

○新緑が眩しい。樺の新緑のトンネルの道路を柏への行き来に通る。新緑時が一番だがいつの時期もこの通りは素晴らしい。街中での比較の話である。筑波山やそれに連なる山々の新緑は当然ながら別格にいい。齢の離れた従妹の姉妹の訪問を受けて、久しぶりに陶炎祭、稲荷、西念寺、玉日廟などを巡った。笠間の街内に緑が少ないと不満に思っていたが新緑のいいところも意外と多い。今回廻った所で緑が素敵と喜んでくれた。陶器が主の目的であった様だが、笠間で知り合いになった人達からの親切な触れ合いも喜んで頂けたようだ。美味しい筍もおみやげに頂いた。何も出来ていない私が感謝しなくてはと思った1日でもある。

○新緑の日和が続き、タンポポが咲き乱れる様を眺めていたらあつと言う間に草が地面を覆い始めていた。新緑を眺め楽しんでいる暇はないと、草払い機で刈った。自然との関係はこういう事なのだと改めて思った。

○緑肥と云う事はあるが、草とシェアをと云う言葉は聞かない。草の繁茂力に恐怖しながらも期待しているところがある。一見矛盾だが、草が繁茂しなくなることを想像したら恐ろしい。

○最近の日替わりの気温差には身体がついていけない。9日は夏日(25℃以上*)から5月の気温になった。農作業日和である。生姜を植える。温度と光が不足で発育が遅いのではとトマト苗をハウスに移す、一ヶ月にはならないが発芽しない(水不足?)カボチャが心配でピッコロファームのKさんに送って頂いた種で蒔き直しをする。苗の定植のため整備などをした。来客などで中断もしたが久しぶりに頑張ったので、今日はこれまでと止めた。来週は、刈り残しで勢いよく繁茂した畑



＜新緑の包まれた街中の車道＞樺の木の
間を車が走る。柏で3日撮影



＜トマトの苗＞マイクロ、イタリアン、
極甘ミニの苗は発育がやや遅れ気味。
3日撮影

の周辺のカラスノエンドウを草払い機で一掃したい。トマトなど苗の定植もしたいと思っている。

注*真夏日 30℃以上、猛暑日 35℃以上を言う。真夏日になった所もある。

【楽農】発芽しないカボチャと生育の遅いトマト苗が心配！

＜畑 A＞；茄子、キュウリ、ピーマンなど定植。ネギの植え替え。水菜、カブ、二十日大根の播種。生姜の植込み。

＜ハウス＞；片付けと除草

＜畑 B＞；里芋の直し植込

*ゴーヤ、インゲンの苗の播種。発芽しないためカボチャの蒔き直し。トマト苗の遅い生育も心配。

*草払い機で周辺の除草など。

【楽市】イベント交流・直売など

○その他；OB 会（13 日）共生の会総会（17 日）エコピア柏のリボン館講座（25 日）ごみを考える会総会（1 日）参加など。

*来客あり久しぶりに陶炎祭などに行く、。



＜生ゴミの堆肥化講座＞柏リボン館で。
熱心な質疑が続く。25 日撮影

【つぶやき=Tweet】子供の頃の雑草は馴染み易く優しかった！

○先月号の“最大の環境破壊の戦争（紛争）”と記述に対し“地球規模で人口の増大こそが環境問題の主因であるとメールを頂いた。その通りであると思う。自然を収奪することで人間社会が成り立っているのである。だが。人類の存在を否定したら議論は意味をもたない。最近”シェアする“が流行っている。考え方は良い事だが。意外と実践は難しい。ルールなど、いろいろの制約が前提になる。自然と人類との共存は別のいい方をすればシェアすることだと言えなくもない。

○子供の声がうるさいから保育園が来るのは反対、落葉が大変だから木は嫌だ。良いところだけを取ることがどれだけ許されるのだろうか。人間の住環境へのニーズはいろいろで難しい。格差問題が世界的に問題になっているが富者の快適は貧者（搾取＝2 月号で紹介したトマ・ピケティの $r > g$ ）の下支えによって成り立っていることを忘れてはならないと思う。だが、快適空間を手に入れた富者が幸福であるかは別の話である。

○草の繁茂力に負け、最近では悲鳴を上げている。だが、草が無くなったら大変である。間拔けた事を言うなどと言われそうだが、草とはシェアする関係が一番なのかもしれない。落葉の話にも繋がるのかもしれない（上述）。私はグリーン派を増やしたいと思っている。

子供の頃の雑草は唱歌にもある。馴染み易く優しくったように思えてならない。農薬や環境の変化で強い雑草に自然淘汰されているのだろうと思う。

○本や雑誌を整理していたら「脳が快樂するとき」(集英社文庫)が目にとまった。大島清(京都大学名誉教授当時)の本である。何冊か読んだことがあるが、一番記憶に残っているは「廃用萎縮」の言葉である。使わないと縮んで使えなくなることである。究極には尻尾や盲腸になってしまうと云う退化の話ではない。加齢とともに使わないと機能低下を起こす。身体の部位は使うことで現状維持ができる。鍛えることで機能アップし改善される。と云うような内容で、

自分自身の実践のことも書かれていた。定年世代向けの本だと記憶している。高齢者には脳や足は文字通り死活問題になる。「廃用萎縮」(題名でない)の本は見当たらなかった。

○「脳が快樂するとき」の内容が気になってひろい読みしてしまった。興味深い一文を引用する。「戦後のベビーブームの終焉にともなって、＜略＞文明国の人間は、結婚して子を産み親になるという喜びを放逐した。＜略＞、生理的快樂を逸脱させたのである。しかし逸脱のツケはきびしい。アメリカでは世紀末の病・エイズであり、家庭崩壊である。家庭崩壊はティーンエイジャーをこころの病に追い込み、＜略＞犯罪の温床となっている。逸脱とは、精神的価値の逆転である。かつての祖先たちの勤労道德、ピューリタン(*1)的な規律は崩れ去り、＜略＞非結婚、非生殖下に享受する。遠い国の出来事として、とかくたかをくくりがちな日本も例外ではない。晩婚化、少産化はいうに及ばず、シングル志向、共働きで子どもをつくらないDINKS(*2)といった非生殖的な傾向も増え続け＜略＞自殺増加といった社会不安がしのび寄っている。」とあとがきの中にあつた。

○25年前に書かれた本である。引用が下手で読みづらい文になっているが、単語だけでも読んで頂ければ今の社会を予見されていることが判ると思う。興味深い内容が多く紹介したいが紙面のこともある。暗い内容や空きがある時にしたい。購読を薦めたい。

注；*1ピューリタン (puritan) 清教徒。謹厳で潔癖な人。きまじめな人(説明は不要と思ったが) *2. DINKS (ディンクス) とは、共働きで子供を意識的に作らない、持たない夫婦、またその生活観のこと。

【後記】 田植え本番、田圃は間もなく緑の絨毯に。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜ハハコグサの植生記録＞手賀沼の畔に幾種類もの植生記録が、。農薬なども含め環境変化で草の種も、3日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>